

# 2017年12月期 第3四半期決算

---

株式会社アプリックス  
2017年11月10日

## 17年12月期第3四半期 累計P/L (連結)

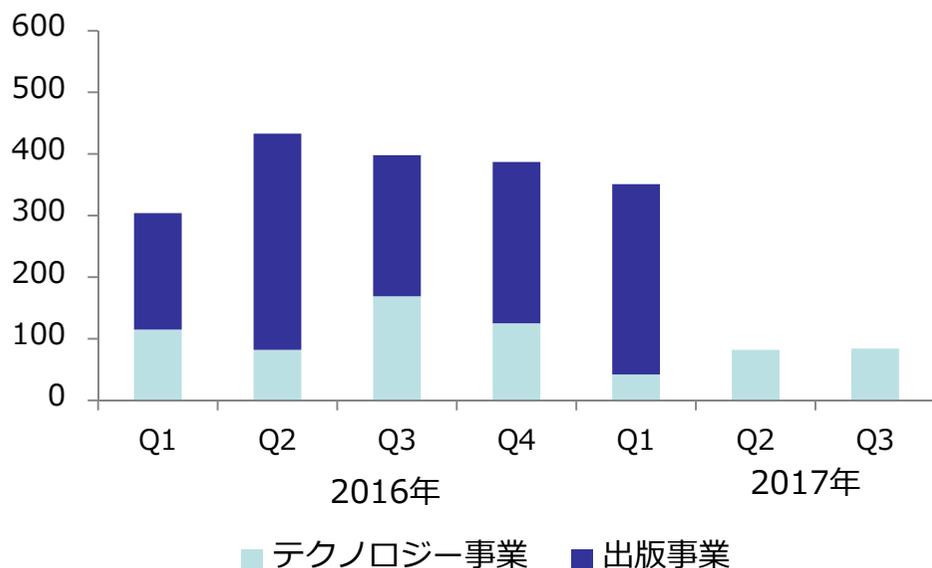


(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益
16年12月期 Q3累計実績(A)	<b>1,138</b>	<b>▲793</b>	<b>▲809</b>	<b>▲843</b>
<b>17年12月期 Q3累計実績(B)</b>	<b>518</b>	<b>▲278</b>	<b>▲292</b>	<b>▲804</b>
増減額 (B-A)	<b>▲620</b>	<b>+515</b>	<b>+517</b>	<b>+39</b>
増減率 (%)	<b>▲54.5</b>	-	-	-

# 17年12月期第3四半期 売上高セグメント推移



単位：百万円



(単位：百万円)	2016年 Q3	2017年 Q3	増減率
テクノロジー事業	169	84	▲50.3%
出版事業	229	0	—
(売上高合計)	398	84	▲78.9%

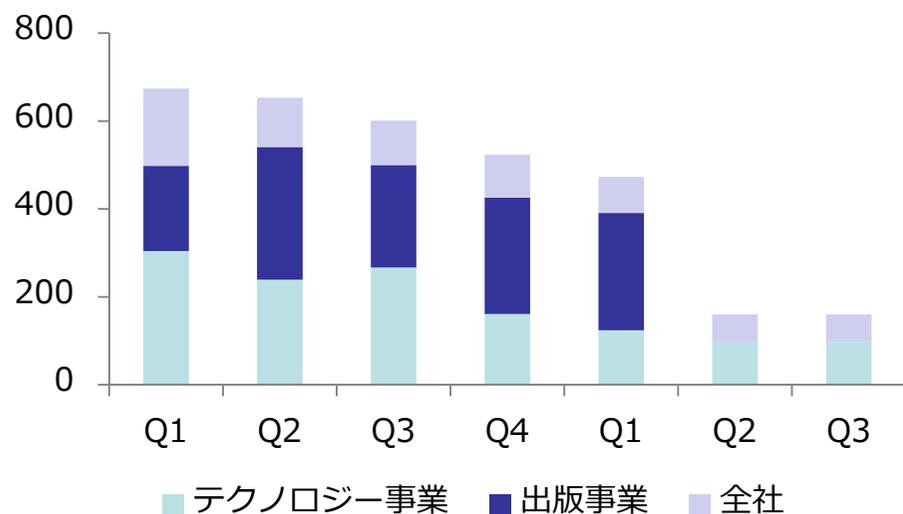
- テクノロジー事業については、2017年Q2との比較では横ばいであるものの、新経営体制による売上向上施策の結果、2017年Q1より大幅に増加
- 引き続き新製品の提供開始、及び広報宣伝活動の更なる強化等により売上拡大を目指す。

※出版事業については、2017年3月31日に、出版事業に属するアプリックスIPパブリッシング株式会社、フレックスコミックス株式会社及び株式会社ほるぷ出版の全株式を譲渡。

# 17年12月期第3四半期 営業費用推移



単位：百万円



(単位：百万円)	2016年 Q3	2017年 Q3	増減率
テクノロジー事業	267	98	▲63.3%
出版事業	233	0	—
全社費用	101	62	▲38.6%
(営業費用合計)	601	161	▲73.2%

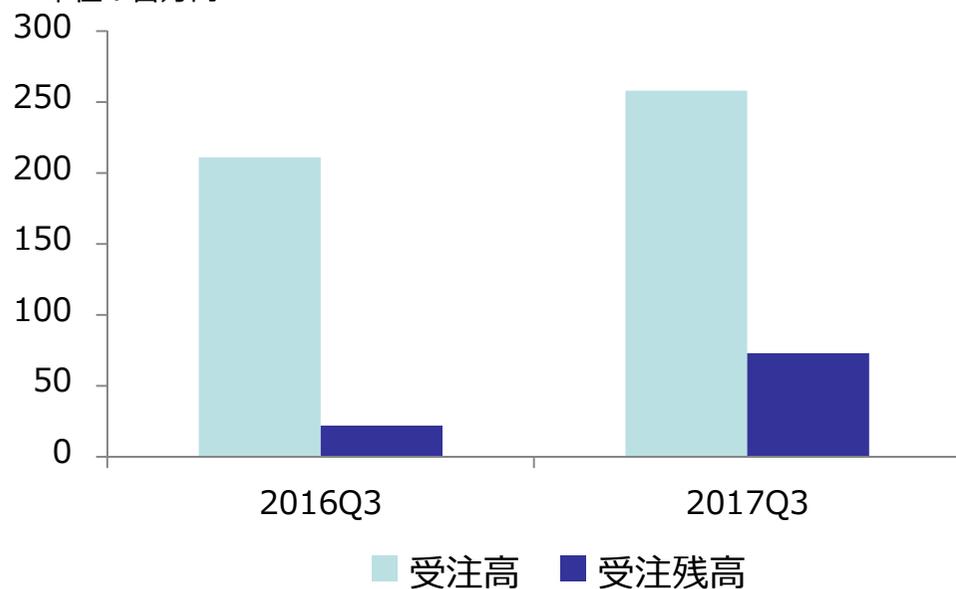
- 出版事業に属する子会社3社の株式譲渡により大幅に営業費用削減
- 本社等で複数使用しているフロアについて一部中途解約を実施する等、固定費等の削減を目的とした継続的なコスト削減策を実施

以上の理由により、前年同期より営業費用は73.2%削減

## 17年12月期第3四半期 受注高・受注残高



単位：百万円



(単位：百万円)	2016年 3Q	2017年 3Q	増減率
受注高	211	258	22.3%
受注残高	22	73	231.8%

- 受注高及び受注残高の主な増加要因は、IoTソリューション事業において過去から取り組んできたソフトウェア開発案件等が受注に至ったこと等の理由による。

## 連結業績予想の修正①

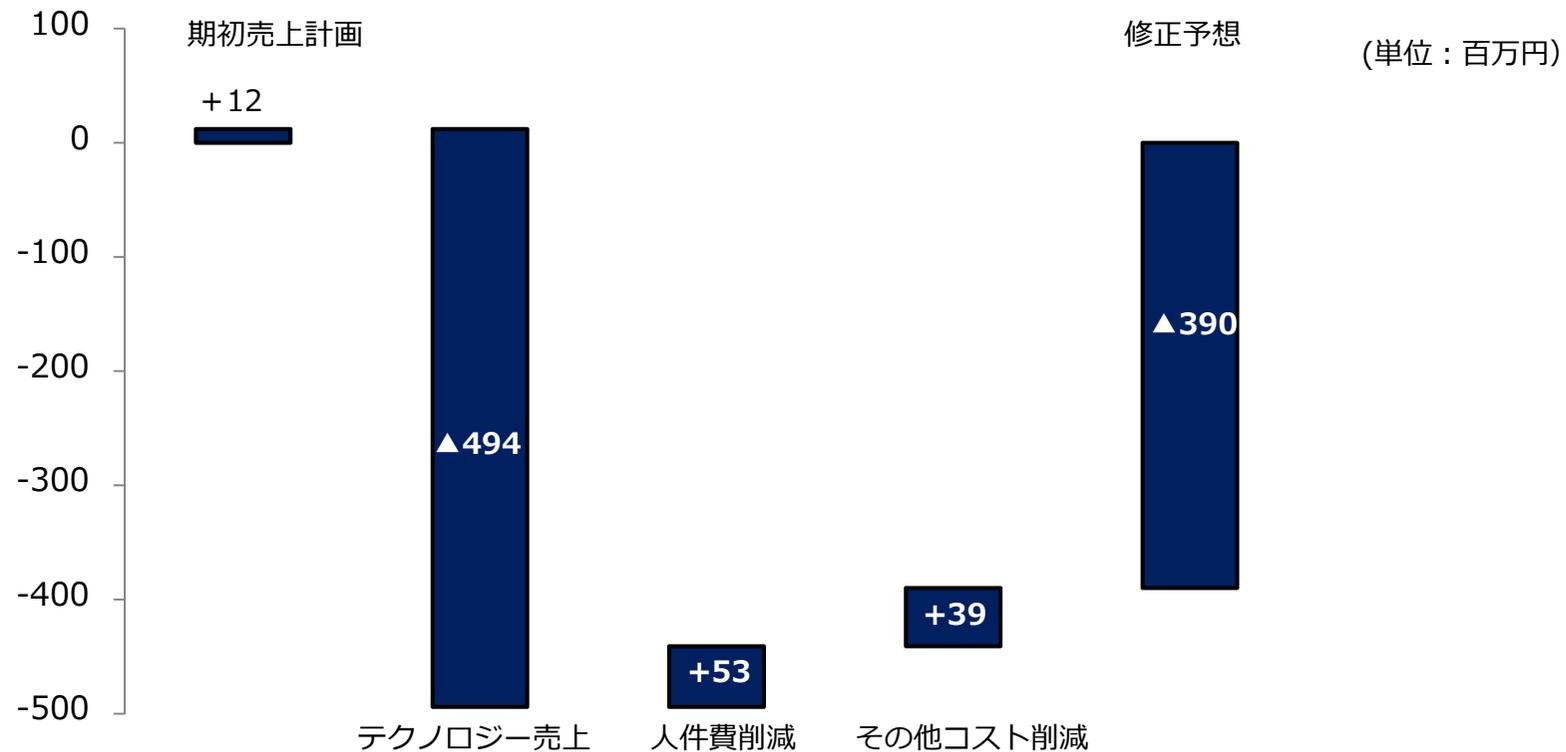


(単位：百万円)	売上高	営業利益
2016年12月期 修正前業績予想(A)	1,054	12
2017年12月期 修正後業績予想(B)	602	▲390
増減額 (B-A)	▲452	▲402
増減率 (%)	▲42.9%	-

### <修正の理由>

- 製品企画・試作から量産品の出荷に至るまでの一連のプロセスが長期化
- 一部案件について顧客の製品投入スケジュールの見直し及び市場投入時期の期ずれが発生
- 非中核事業の整理に時間がかかり、収益性の向上に必要不可欠となる体制の再整備及び業務プロセスの再構築着手の遅れが発生

## 連結業績予想の修正② 業績修正ブレイクダウン



- テクノロジー事業の売上高の大幅な減少に伴い、継続的なコスト削減を行うも営業利益が大幅に減少
- テクノロジー売上▲494百万円の主な内訳：  
国内主要顧客：▲199百万円、国内その他顧客：▲162百万円、海外顧客：▲133百万円

# 新事業ビジョン



# CONNECTING THE UNCONNECTED

ミッション：「みんなをつなげる」ことに貢献する企業（東証マザーズ：3727）  
「みんなをつなげる」ことによる新たな付加価値の創造と新しいビジネスへのチャレンジ

# アプリクスのこれまで



## 1980年代 メディアのインフラ

WinCDR 6.0  
Premium Package



SONY  
Portable CD-R/RW Drive  
CRX76A / CRX76U



大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目される

## 2000年代 制御のインフラ



1996年 Javaライセンス取得後の株式上場の原動力となる「JBlend」の原動力に

## 1990年代 ネットワークのインフラ

カーナビゲーションシステム



カーナビゲーションシステムならびに組み込むブラウザ、家庭用ゲームのインターネット対応等

## 2010年代 IoT・M2Mのインフラ



ビーコン及び関連アプリ、BLE(Bluetooth Low Energy)技術、IoTワンストップソリューション

**これまでの実績をもとにIoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代の新しいインフラの構築・開発・運用へ**

## IoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代のインフラ

Society 5.0（超スマート社会）の定義：

“必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要な時だけに提供でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会”

Society5.0を実現する4つのキーワード

1. ヒト・モノの移動
2. 生み出す・手に入れる
3. 健康の維持
4. 暮らす

4つのキーワードを実現するには、IoT、AI、Robot、ビッグデータなど複数のシステムを“つなぐコネクタ”が必要

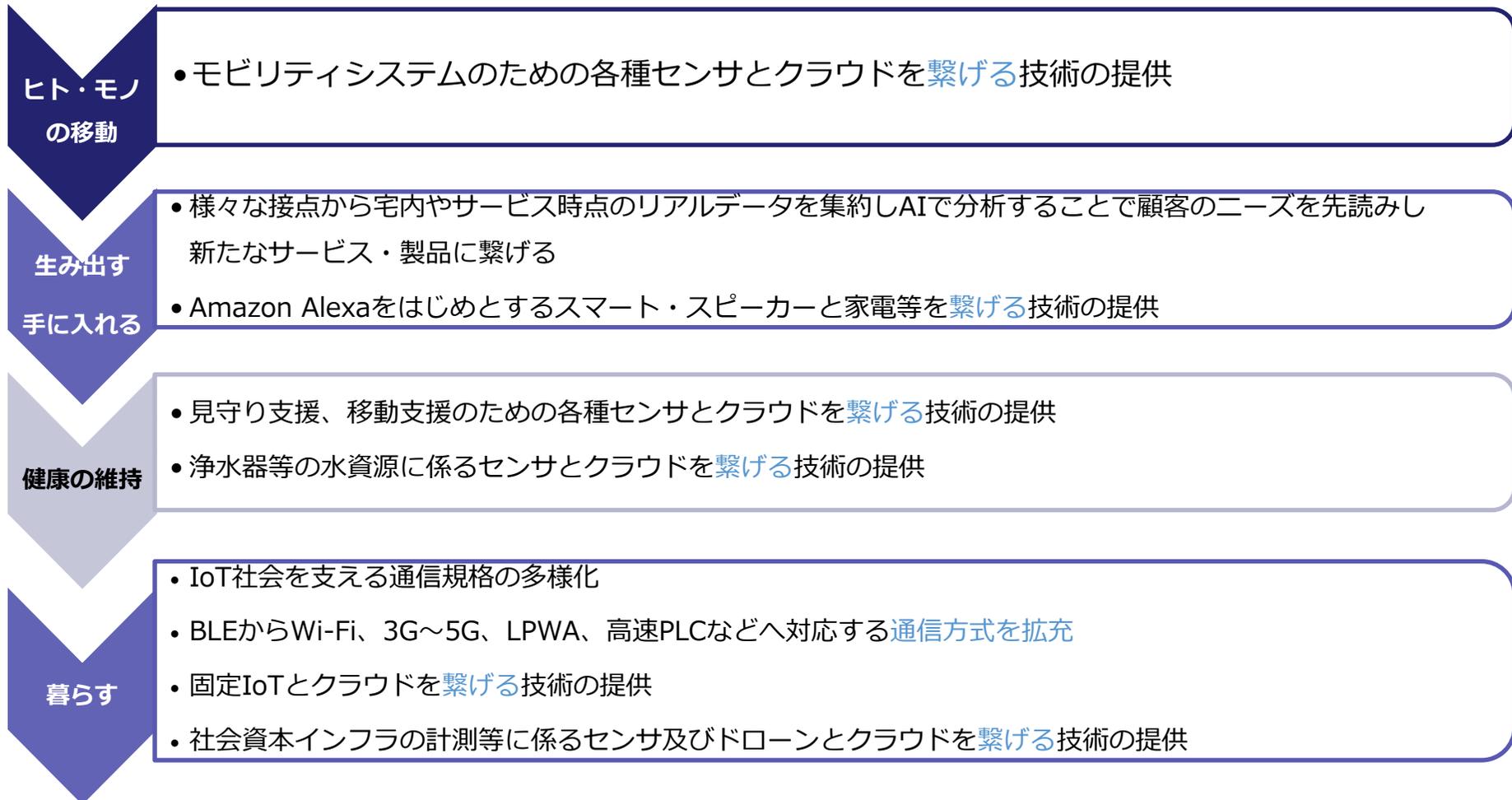
→システムをつなぐコネクタが当社の役割

※内閣府第五期科学技術基本計画（平成28年～32年）= Society 5.0  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/kihon/main5\\_a4.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/main5_a4.htm)

# アプリックスが目指す次のインフラ



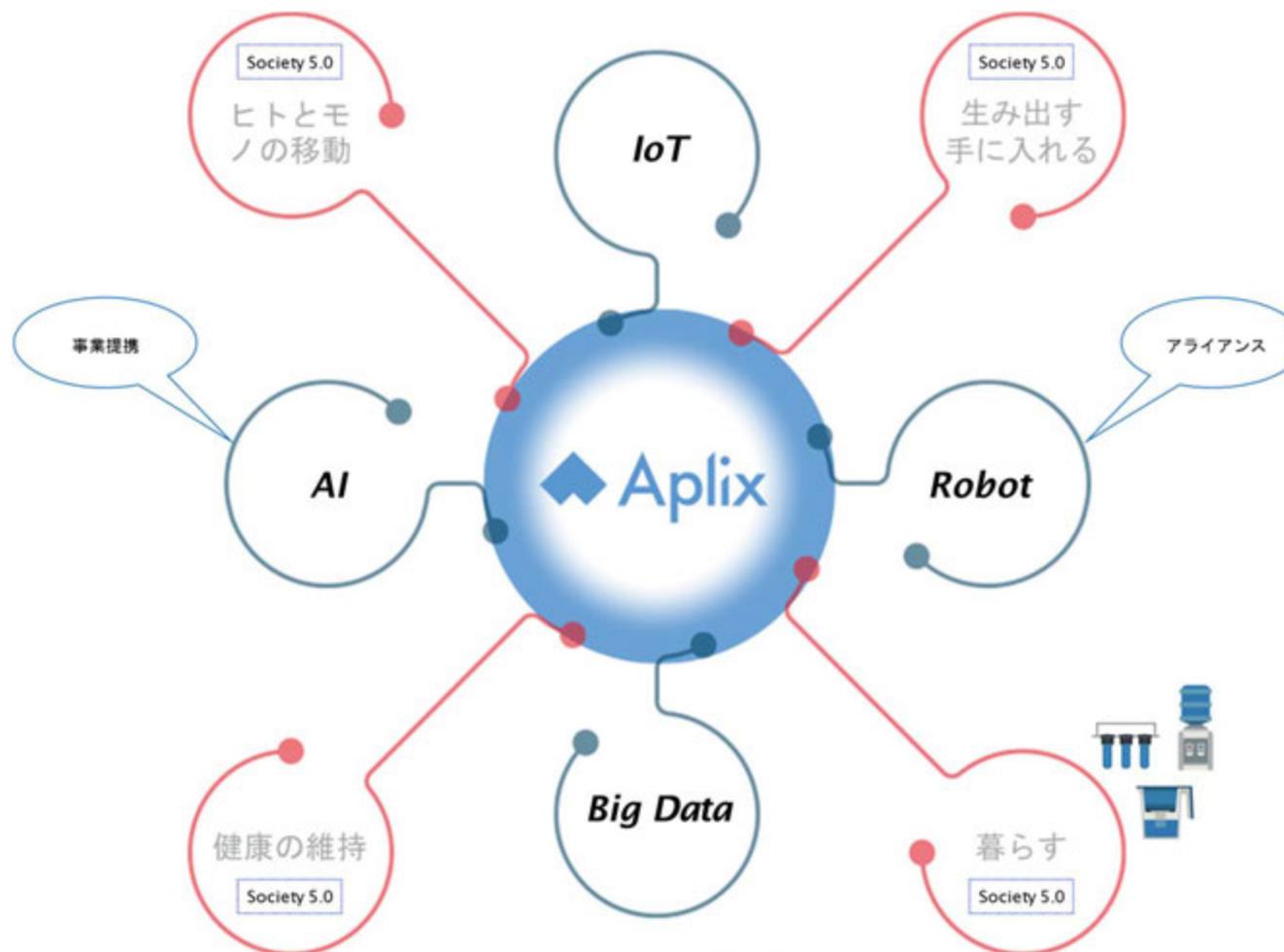
## Society5.0の4つのキーワードと当社の取り組み



# アプリケーションが目指す次のインフラ



4つのインフラをアライアンス・事業提携等を活用して実現



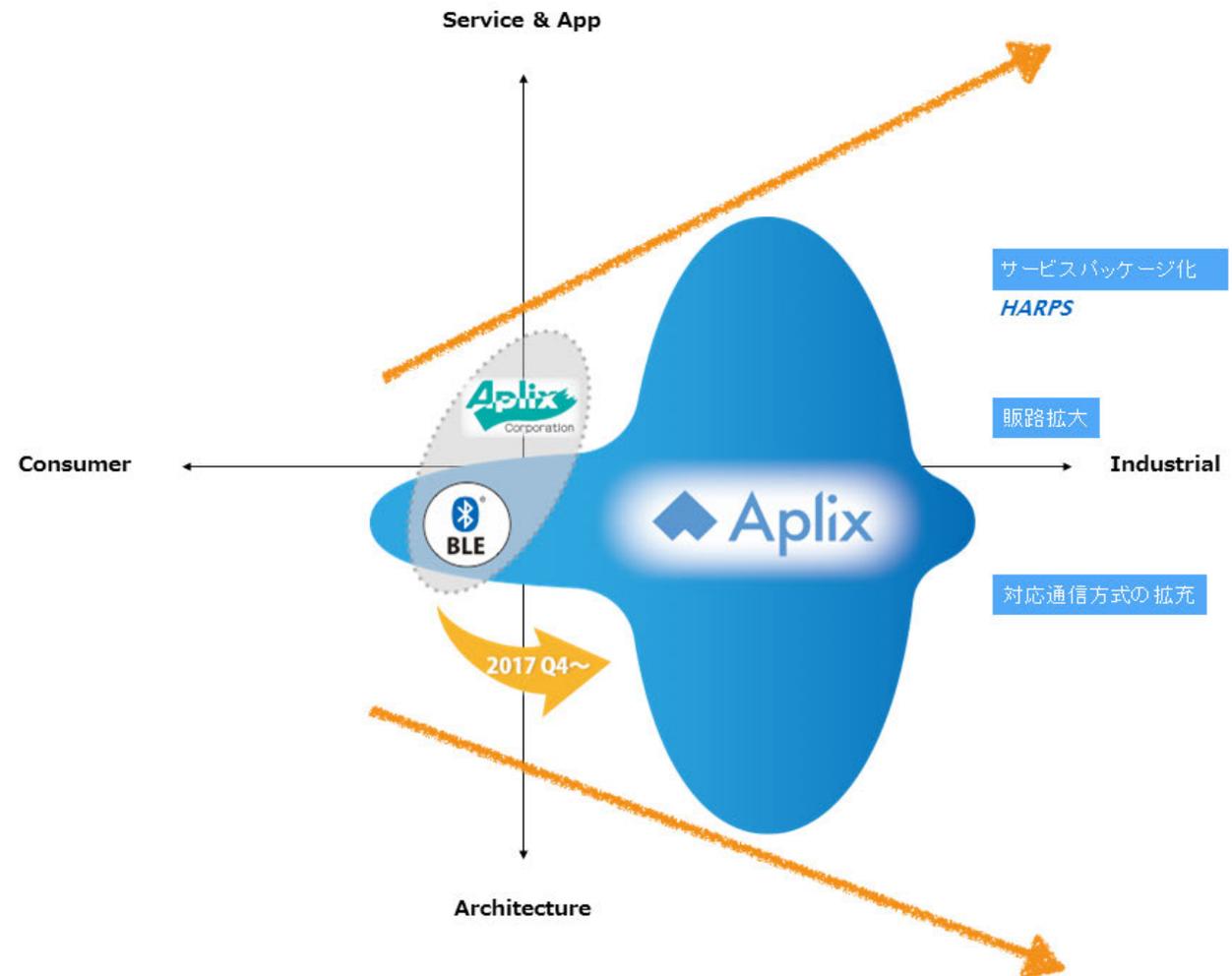
※ Society 5.0: 内閣府第五期科学技術基本計画

# アプリックスが目指す次のインフラ



事業ビジョンを実現するための3つの事業方針

1. 自社サービスの強化
2. 販売経路の拡大
3. 対応通信方式の拡充



## 自社サービスの強化

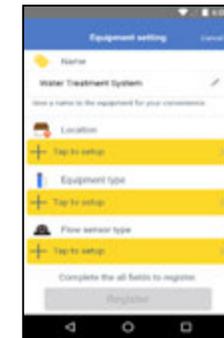


自社サービスの強化：当社で培ったノウハウをパッケージ化して、サービスとして展開

- HARPS Aqua :  
当社がこれまで取り組んできた浄水IoTソリューションをパッケージ化（ハード+サービス）  
浄水器をモニターし、フィルターのリプレース等を把握できるソリューションであり2018年からサービス開始予定
- Gumwheel :  
IoTセキュリティスキャナー  
オフィス・ホームネットワークに設置し、IoT機器のセキュリティステータスを監視
- Aplix ConstantBridge IoT Platform :  
スマートフォンのPUSH通知によって、機器を動作させることができるIoTプラットフォーム



IoTIZR：流量センサーに接続し、その水流情報を無線LAN経由でクラウドに通知する当社独自デバイス



HARPS Toolkit：IoTIZRに接続して浄水器を設定し、モニターするアプリ



Aquatech 2017でのブース展示



200社以上がモニター登録

自社以外の販路をアライアンス、事業提携等を積極的に開拓し、販売経路の拡大を図る

### ➤ 株式会社光通信との合併会社設立

- ・ 2017年11月9日の取締役会において、光通信社と合併会社を設立することを決議。高い営業力を有する光通信社の営業ノウハウや人材の提供を受けることにより当社IoTソリューションの更なる販路拡大及び販売強化を目指す
- ・ 当該合併会社では、「MyBeacon」等当社のIoTソリューション製品及び光通信社の子会社が取扱うSIM及び法人向け携帯電話等を販売予定

<u>会社名</u>	株式会社アプリックスマーケティング（仮称）
<u>本店所在地</u>	東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号（予定）
<u>資本金</u>	1,000万円
<u>出資比率</u>	当社：51%、光通信社：49%
<u>設立予定日</u>	平成30年1月4日
<u>事業内容</u>	IoTソリューション事業、 法人向け携帯電話販売事業、MVNO事業等

## 販売経路の拡大 ～光通信社に対する有償ストック・オプションの発行

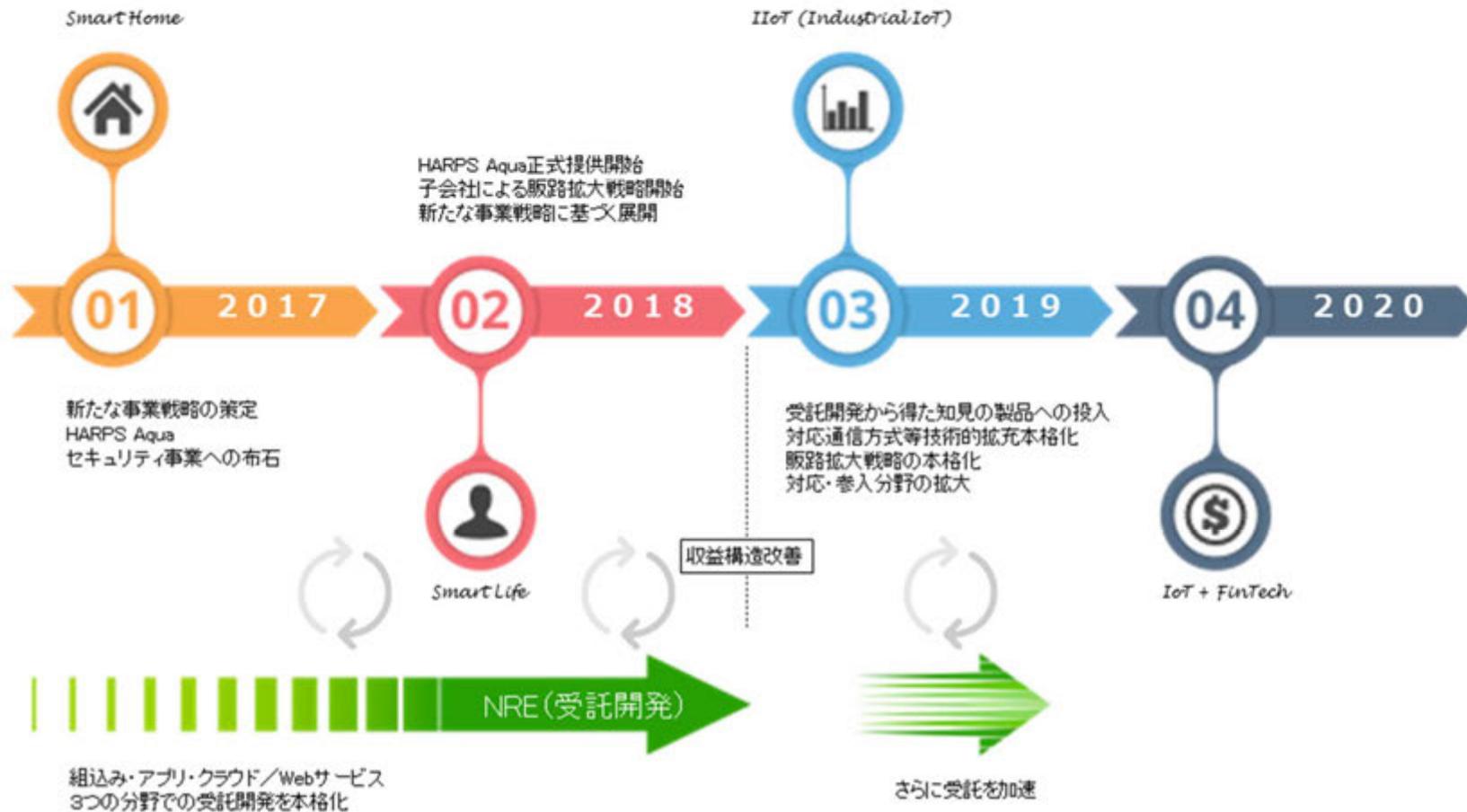


- 2017年11月9日の取締役会において、光通信社に対して、合併事業に対する意欲及び士気の向上、並びに相互協力関係の更なる強化を目的として有償ストック・オプションの発行を決議。

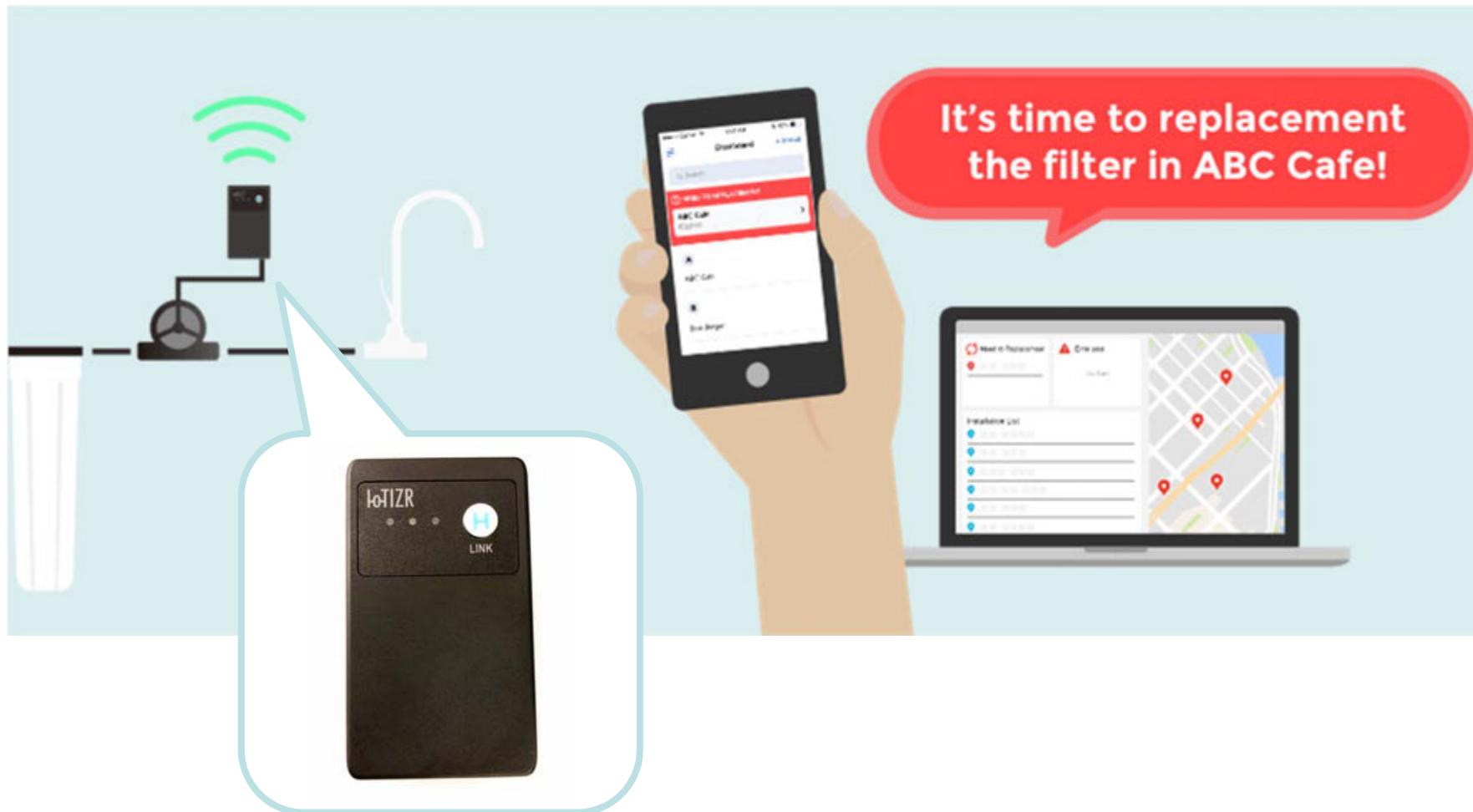
割当日	2017年11月27日	<u>行使の条件</u>	<p>■業績連動</p> <p>(1) 2018年、2019年、2020年の各事業年度（1/1～12/31）において合併会社の売上総利益（粗利）が3,800万円を超えた場合、本新株予約権の50%を行使可能</p> <p>(2) 2018年、2019年、2020年の各事業年度（1/1～12/31）において合併会社の売上総利益（粗利）が4,700万円を超えた場合、本新株予約権の100%を行使可能</p> <p>■ロックアウト条項</p> <p>株価が行使価額の60%を下回った場合、新株予約権を行使することはできない。</p>
発行新株予約権数	7,875個		
発行価額	総額787,500円 （新株予約権1個当たり100円）	<u>資金使途</u>	<p>当該合併会社に供する事業において提供予定の当社製品「MyBeaconシリーズ」等の増産に要する原材料費用及び製造費用、安定的な製品供給・サポート体制の拡充等の資金に充当する予定</p>
本新株予約権発行による潜在株式数	787,500株 （新株予約権1個につき100株） ※募集後持株比率：5.20%		
行使価額	1株当たり513円		
調達資金の額	404,775,000円 （新株予約権発行分含む）		
募集又は割当方法	第三者割当		
割当予定先	株式会社光通信		

- IoT は、あらゆる分野において様々なサービスを実現する可能性に満ちた技術分野であり、用途や状況に応じて必要とされる通信規格及び通信デバイスは様々。また新たな規格等が次々に登場している。
- 今まで取り組んできたBLE 及び無線LAN 等に加えて、低消費電力で広域をカバーする無線技術であるLow Power Wide Area (LPWA) や5G などの次世代通信規格等への対応を進めることで、多様化する市場及び顧客のニーズに応える。

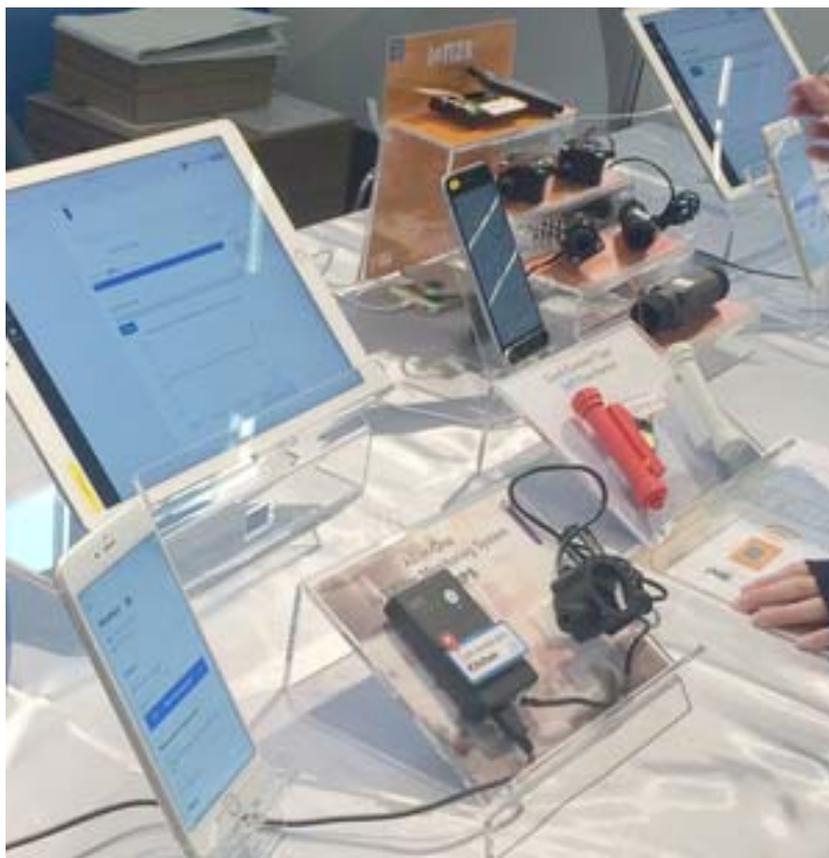
# 今後のロードマップ



## 浄水器につなぐだけでIoT化できるオールインワンパッケージ 「HARPS Aqua」を開発



### 「Aquatech Amsterdam 2017」で「HARPS Aqua」の モニター版を無料配布し、好評を博す

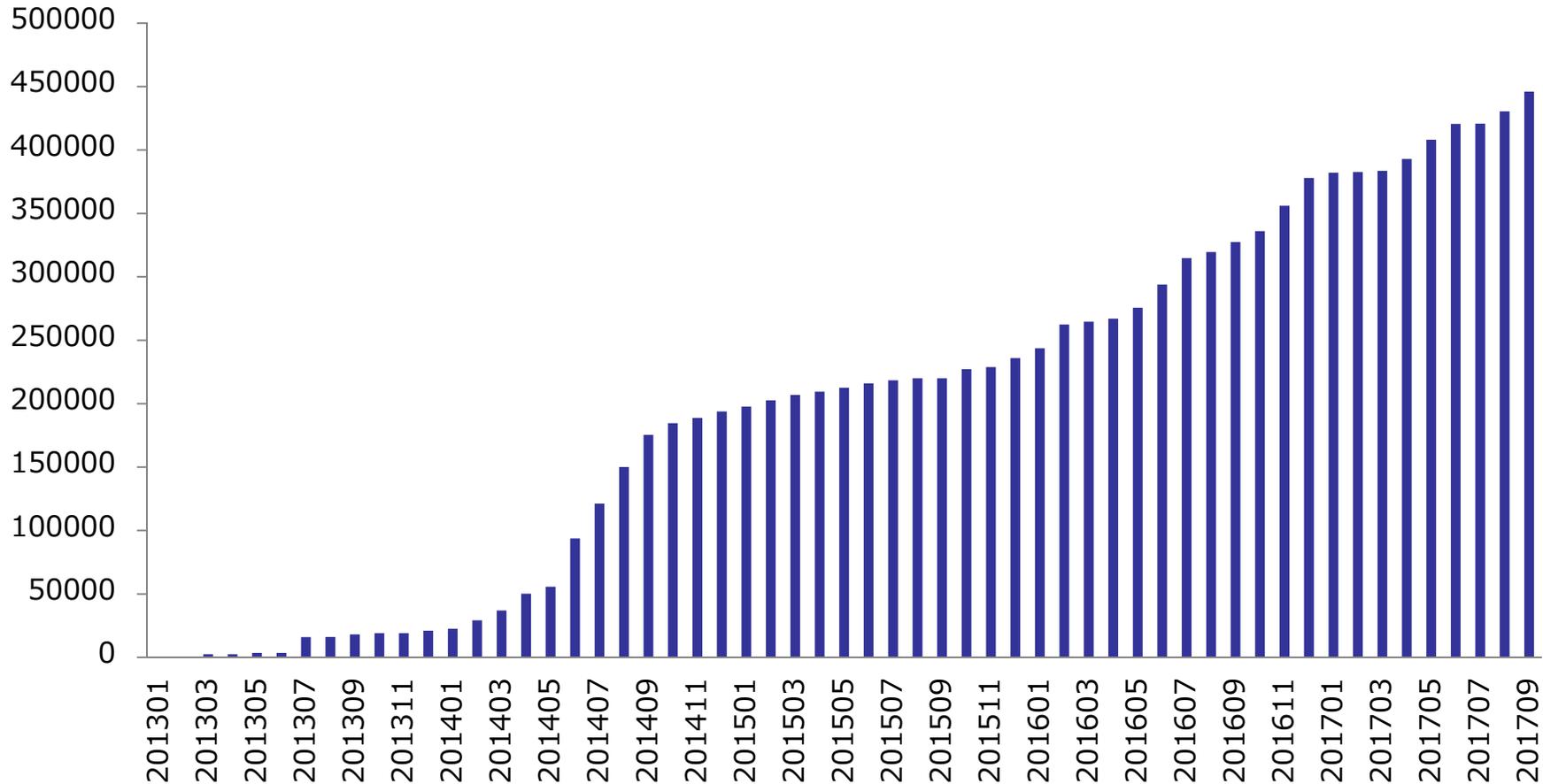


# BLEモジュール出荷台数



17年6月に、BLEモジュール累計出荷台数42万台を突破

(単位：台)



出所：会社資料

BLEモジュール、JMシリーズ、MyBeaconシリーズ、その他を合計

### Bluetooth Low Energy (BLE) モジュールの累計出荷台数が42万台突破 ～ 当社BLEモジュール搭載製品の発売などにより出荷が加速 ～

アプリックスで開発し、国内外に販売しているBluetooth Low Energy (BLE) モジュールの出荷台数が、2017年6月末に累計で42万台を突破しました。

アプリックスでは2012年8月に最初のBLEモジュール「JM1」を発売し、2017年6月末にBLEモジュールの累計出荷台数は42万台を突破しました。

2016年7月に累計出荷台数30万台突破を発表して以来、2016年7月から2017年6月までの1年間では12万台を超すBLEモジュールを出荷することができました。

これは、当社BLEモジュールを搭載したお客様の製品の発売や、「MyBeaconシリーズ」の販売が順調に推移したことなどによるものです。



## 補足資料 - Appendix

## 会社名

株式会社アプリックス  
[英文表記：Aplix Corporation]

## 本社所在地

〒160-0051  
東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号

## 設立年月日

1986年2月22日

## 資本金

1,861百万円 [2017年3月末現在]

## 売上高

1,526百万円（連結） [2016年12月期]

## 従業員数

33名（連結） [2017年9月末現在]

## 役員

代表取締役 兼 取締役社長	長橋 賢吾
取締役	石黒 邦宏
社外取締役	平松 庚三
常勤監査役	根本 忍
社外監査役	新田 喜男
社外監査役	山田 奨

執行役員	長橋 賢吾
執行役員	石黒 邦宏
執行役員	高木 健
執行役員	白川 貴裕
執行役員	山田 伸重

## 事業内容

テクノロジー事業

## グループ会社

Aplix Corporation of America 他

## **長橋 賢吾（代表取締役 兼 取締役社長）**

慶應義塾大学環境情報学部卒業。同大学院政策・メディア研究科修了、2005年東京大学大学院情報理工学研究科修了。博士（情報理工学）。英国ケンブリッジ大学コンピュータ研究所訪問研究員を経て、2006年日興シティグループ証券（現、シティグループ証券）にてITサービス・ソフトウェア担当の証券アナリストとして従事後、2009年3月フューチャーブリッジパートナーズ株式会社設立。2015年3月に当社取締役・CFO・チーフエコノミスト、2017年2月より当社代表取締役 兼 取締役社長。

## **石黒 邦宏（取締役CTO）**

北海道大学農学部を卒業後、株式会社SRA、ネットワーク情報サービス株式会社を経て、株式会社デジタル・マジック・ラボでUNIXソフトウェアの開発、インターネット経路制御の運用に関わり、オープンソースウェアで経路制御を実現するGNU「Zebra」を開発。そして、「Zebra」をベースにした商用ソフトウェアである「ZebOS」を開発・販売するために、1999年10月、米国にてIP Infusionを創業。「ZebOS」は、世界中のルーターやスイッチメーカーに採用。株式会社ACCESS取締役CTOを経て、2015年4月に当社CTO、2016年3月より当社取締役に就任。



## セキュリティ

ネットワーク上のセキュリティ  
リスクのあるIoT機器をまとめて  
検出。

IoTセキュリティスキャナー  
「Gumwheel」



## デバイス

Bluetoothモジュール  
「JM1L2S」  
Wi-Fiモジュール、国内シェア  
No.1  
「MyBeaconシリーズ」



## アプリ

iOS、Android対応。IoTデータを  
取得するビーコンサービスアプ  
リ「hubea」を提供、クラウド  
との連携も可能。



## クラウド

すべてのIoTデータを蓄積したブ  
ラットフォームから、必要に応  
じてデータを提供。ビッグデー  
タを活用した新たなサービスを  
創造します。



株式会社アプリックス  
<http://www.aplix.co.jp/>

ご注意：本資料は、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。